

2023年12月10日  
宮崎中部教会主日礼拝  
牧師 乾元美

詩編 19 : 15

ヨハネの手紙一 3 : 1~3

(ハイデルベルク信仰問答 十戒について 問 114~115)

※問答は「日々の祈り」をご覧ください。

【招詞】 マルコによる福音書 1 : 15

【讃美歌】 25 「父、子、聖霊に」

【詩編交読】 詩編 130 編

【赦しの宣言】 イザヤ書 55 : 7 「主に立ち帰るならば、主は憐れんでくださる。

わたしたちの神に立ち帰るならば／豊かに赦してくださる。」

【讃美歌】 241 「来たり給えわれらの主よ」

【祈祷】

【聖書】 詩編 19 : 15、ヨハネの手紙一 3 : 1~3

【説教】 「いよいよ新しく」

<十戒の締めくくり>

ハイデルベルク信仰問答の「十戒」の問答から、一つ一つの戒めを通して、聖書の御言葉を聞いてきました。今日はいよいよ、その「十戒」の締めくくりになります。

わたしたちは、「十戒」が、「この戒めをちゃんと守らなければ、救いをいただけない」とか、「救われるためには、これを完全に守らなければならない」、というようなものではない、ということを教えられてきました。

「十戒」を守ることが、救いの条件なのではありません。

わたしたちは、神さまから離れ、隣人と争い、罪の悲惨の中で、もう自分ではどうしようもなくなっていました。「十戒」を守ることなど、決してできなかったのです。

でも神さまは、それでも、そのようなわたしたちを愛して下さり、憐れんでくださいました。そして、わたしたちを罪から救うために、ご自分の御子イエスさまを、この世にお遣わしくださったのです。

神の御子イエスさまは、わたしたちの罪を背負って十字架で死に、復活し、わたしたちに無償で、罪の赦しを与えてくださいました。一方的に、イエスさまが、わたしたちの罪の借金をすべて肩代わりして下さって、わたしたちをご自分のものとして、買い取ってくださいました。

そして、ご自分のすべての恵みを、尊い命を、このようなわたしに、与え尽くしてくださいました。罪の赦しと、神さまと共に生きることができる、永遠の命を与えてくださった。わたしたちの救いはただ、このイエスさまにのみ、あるのです。

ですから、これらの計り知れない、言い尽くせない、神さまの救いの恵みに感謝をするために。神さまの恵みにお応えして、日々、神さまを愛し、隣人を愛して歩むために。「十戒」が与えられたのです。

「十戒」は、わたしたちが、神さまの救いの恵みに応える、感謝の生活の「道しるべ」であり。神さまに喜ばれる歩みを教え、導く、指針なのです。

<なお、十戒を守れないわたしたち>

でも、ここに大きな問題があります。

それは、わたしたちが、これらの「十戒」が求めていることを、本当にちゃんと行えるのか。感謝だからと言って、これらの戒めを、完全に守れるのか、ということです。

ハイデルベルク信仰問答は、正直にそのことを問うています。問 114 はこうあります。

「問 114 それでは、神へと立ち返った人たちは、このような戒めを完全に守ることができるのですか。」

答えは、「いいえ」です。

…わたしたちは、教えられてきました。「あなたには、わたしをおいてほかに神があってはならない。」それは、神さま以外の、他のなにものも頼りにしない。そのような誘惑があるのなら、すべてのものを放棄してでも、ただ神さまだけを拠り所とする、ということでした。

また、「殺してはならない」という戒めは、ただ人を殺さなければよい、ということではありませんでした。わたしたちの心の中の、小さな殺人の根っこ。ねたみ、憎しみ、怒り、復讐心。そのような思いを抱くことも、隠れた殺人である。心の思いにおいても、この戒めを破ったことになる。そう教えられました。

そして、「隣人の家を欲してはならない」。神さまに逆らう、どのような欲望も、心に入り込ませないこと。ただ、神さまだけを慕い求めていくこと。そのことが求められていました。

わたしたちは、「十戒」を正しく知れば知るほど、これらの戒めを守っていくことが、どれだけ難しいことであるかを、思い知らされてきたのではないのでしょうか。

難しいどころか、わたしは、これらを何も守れていない。罪を赦された者として、神さまの御前に立たされているのに、なお罪を繰り返している。なおイエスさまが背負ってくださった重たい十字架に、罪を加えて、投げかけ続けている。

わたしたちは「十戒」において、ますます自分の罪の姿を、自覚させられるばかりなのではないのでしょうか。

でも、罪の自覚がなければ、わたしたちは、悔い改めようとすることも出来ないのです。

確かに、わたしたちは、罪を繰り返しています。戒めに背き続けています。神さまをなお、悲しませる歩みを続けています。

でも、わたしたちは、その罪を自覚する時、それでもなお、今のこの罪もまた、イエスさまにあって、赦されていると信じてよいのです。神さまの恵みに立ち返るごとに、また、赦された者として、歩み出してよいのです。

イエスさまの十字架を覚える度に、イエスさまが、「行きなさい。これからは、もう罪を犯してはならない。(ヨハネ福音書 8:11)」そう語りかけてくださる。また、今日も、罪を赦されて、ここから、歩み出させてくださる。この恵みの道を、イエスさまと共に、歩いていくことがゆるされている。

わたしたちは、このことを、信じることができるのです。このことを、覚えることが、大切なのです。

わたしたちは、赦しの中であってこそ、本当に自分の罪と向き合うことができます。

そして、自分の罪を知るからこそ、赦されたことの、恵みの本当の大きさを、知ることができるのです。

ですから問 114 は、こうように問うて、答えます。

「問 114 それでは、神へと立ち返った人たちは、このような戒めを完全に守ることができるのですか。」

「答 いいえ。それどころか最も聖なる人々でさえ、この世にある間は、この服従をわずかばかり始めたにすぎません。とは言え、その人たちは、真剣な決意をもって、神の戒めのあるものだけではなくそのすべてに従って、現に生き始めているのです。」

そうです。わたしたちも、神さまが示してくくださる道を、感謝の道を、愛に生きる道を、現に生き始めている。歩み始めることがゆるされている。このことを、覚えたいのです。

#### <次第次第に罪を知る>

ですから、「十戒」を、「どうせ守れない」と諦めたり。「何もできない」と嘆いたりすることはできません。「十戒」は、聞くだけ無駄な、机上の空論なのではありません。

わたしたちは、この恵みに、もうこの今、生き始めていることを覚えて、繰り返し、「十戒」を、心に刻んで行かなければならないのです。

ですから、ハイデルベルク信仰問答の問 115 はこう問います。

「問 115 この世においては、だれも十戒を守ることができないのに、なぜ神はそれほどまで厳しく、わたしたちにそれらを説教させようとなさるのですか。」

ここでは、守れない「十戒」を説教されても仕方ないんじゃないんですか。どうして、守れないことを、厳しく教えられなければならないのですか。そんな風に問うています。

でも、答えは、さきほどお話しした通りです。答えの一つ目にはこうあります。

「答 第一に、わたしたちが、全生涯にわたって、わたしたちの罪深い性質を次第次第により深く知り、それだけより熱心に、キリストにある罪の赦しと義とを求めるようになるためです。」

まず、わたしたちは「十戒」の御言葉を聞くことで、「わたしたちの罪深い性質を次第次第によく知」るように、させられます。

神さまが求めておられることを知ること、わたしたちは、そのことを守れない自分。救われて、罪を赦されてもなお、神さまの御心に従えない自分を、知らされていきます。

クリスチャンになったからと言って、信仰生活が長いからと言って、罪がだんだん薄れていくように感じる人は、いないはずです。

むしろ、ますます自分の罪の深さに、深刻さに、気付かされていく。イエスさまの救いの恵みを知るほどに、神の御子イエスさまが、十字架で苦しんで、叫んで、死ななければ、償われることができなかつた自分の罪。そこまでしていただかなければ、どうしようもなかつた罪を、ますます知らされるばかりなのです。

でも、そのようにしてこそ、わたしたちは、ますます「悔い改め」へと導かれるようになるのです。ますます、恵みを求めるようになるのです。ますます、罪から離れることを、心から願うようになるのです。

そうして、わたしたちは、ますます、神さまの助けを、必要とするようになる。いよいよ、支えを、励ましを、祈り求めるようになっていく。

そして、それこそ、神さまが求めておられることであり、わたしたちが神さまの御心に近づいていくことなのです。

<完成に向かって>

ですから、問 115 の二つ目の答えは、このように語ります。

「第二に、わたしたちが絶えず励み、神に聖霊の恵みを請うようになり、そうしてわたしたちがこの生涯の後に、完成という目標に達する時まで、次第次第に、いよいよ神のかたちへと新しくされてゆくためです。」

わたしたちは、罪を知るほどに、絶えず励み、神に聖霊の恵みを請うようになります。

聖霊なる神さまは、わたしたちに神さまの力を注ぎ、賜物を与え、信仰を導いてくださるお方です。天におられるイエスさまと、わたしたちとを、結び合わせてくださるお方です。

わたしたちは、自分の力で、自分を救うことも出来なかつたし、また、救われた後も、自分の力で、歩いていくことは出来ません。なお、罪を繰り返し、おぼつかない、弱々しい、破れかぶれの歩みを繰り返しています。

だからこそ、わたしたちは、真剣に、絶えず、聖霊を、神さまの力を求めていくのです。助けを、恵みを、賜物を、祈り求めていくのです。

その中で、神さまは、わたしたちの祈りに、必ず応えて下さいます。

聖霊を注ぎ、御力を与え、わたしたちがイエスさまに従って歩んでいくことができるように。神さまの御心に適った生活ができるように。「十戒」が求めているように、神さまを愛し、隣人を自分のように愛して生きていくことができるように。わたしたちを造り変え、新しくして下さいます。

そして、この第二の答えには、「わたしたちが絶えず励み、神に聖霊の恵みを請うように」なる。そして、「わたしたちがこの生涯の後に、完成という目標に達する時まで、次第次第に、いよいよ神のかたちへと新しくされてゆく」、とありました。

「わたしたちがこの生涯の後に、完成という目標に達する」。つまり、わたしたちは、この生涯の中で、完成という目標に達することはできない、ということです。

この生涯の中で、完全に、神さまの御心に従い、「十戒」の戒めを守り、求められていることを全うすることはできないのです。

わたしたちには、出来ません。さっきも言いました通り、この世にある限り、わたしたちは、不完全な者であり、罪を赦されてもなお、罪が足元に絡みつき、弱々しい、心許ない歩みしか出来ません。

でも、だからこそ、生涯の後に、神さまが、わたしたちの救いを完成させる、と言ってくださっているのです。

天に上げられたイエスさまが、再び来られる日。世の終わりの日。わたしたちが復活に与り、神さまの御前に出て、最後の審判で、イエスさまに罪の赦しを宣言される日。

この日にこそ、わたしたちの罪は完全に拭われ、わたしの体は栄光の体によみがえり、イエスさまとこの目で見えてお会いし、わたしたちは、完成に至らせられるのです。

ですから、わたしたちは、神さまに祈りつつ、御心に従いつつ、罪と戦い、忍耐をし、完成に至らせられる希望をもって、歩んでいくことが出来るのです。

今日、読まれた、新約聖書のヨハネの手紙一 3:1~3 にも、その希望について語られていました。もう一度読んでみます。

「御父がどれほどわたしたちを愛してくださるか、考えなさい。それは、わたしたちが神の子と呼ばれるほどで、事実また、そのとおりです。世がわたしたちを知らないのは、御父を知らなかったからです。愛する者たち、わたしたちは、今既に神の子ですが、自分がどのようになるかは、まだ示されていません。しかし、御子が現れるとき、御子に似た者となるということを知っています。なぜなら、そのとき御子をありのままに見るからです。御子にこの望みをかけている人は皆、御子が清いように、自分を清めます。」

わたしたちは、父なる神さまに愛されて、イエスさまの救いを信じ、洗礼を受けた時点で、もう今既に、神の子とされています。それは、確かな事実です。

でも、わたしたちが神の子であるということは、この世において、誰の目から見ても明らかにされているわけではありません。すべての者の目に、この救いの恵みが、明らかにされているわけではありません。まだこのことは、今この世においては、信仰によって、見つめなければならない事柄です。

そして、わたしたち自身も、いまだ罪の残骸の中で、誘惑の中で、自分が神の子であることから、ほど遠いのではないかと、思わされることがあるでしょう。

でも、その隠されたものが、すべて完全に現わされる日が来ます。すべての者に、救いの恵みが、明らかにされる日が来ます。

2節の後半には、わたしたちが、「御子が現れるとき、御子に似た者となる」と語られていました。「御子が現れるとき」。それは、今は天におられるイエスさまが、再び世に来られる、終わりの日のことです。

その時、わたしたちは、「御子に似た者となる」。つまり、その時、わたしたちも、イエスさまのように、まことの神の子であることが、はっきりと現わされる。イエスさまのように神さまの栄光に包まれ、イエスさまのように聖いものとされ、イエスさまのように完全な愛の交わりに入り、イエスさまのように永遠の命を生きる者とされる。

わたしたちは、このことを、確かな希望として、持っていてよいのです。確かな約束として、信じてよいのです。

<いよいよ新しく>

そして、『ハイデルベルク信仰問答』が教えてくれるのは、わたしたちは、今この時も、その希望の日、約束の日に向かって、確実に前に進んでいる、ということです。

「わたしたちが絶えず励み、神に聖霊の恵みを請うようになり、そうしてわたしたちがこの生涯の後に、完成という目標に達する時まで、次第次第に、いよいよ神のかたちへと新しくされてゆく」。

今この時も、少しずつ、神の国は近づいている。今この瞬間も、御子が来られ、すべてを完成させてくださる日が、近づいている。

そして、それと共に、わたしたちにもまた、一日一日と、恵みが増し加えられているのです。一日一日と、神さまに近づいている。そしてわたし自身も、一日一日、聖霊によって、御子に似た者へ、神のかたちへ、完成に向かって、次第次第に、新しくされているのです。

「神のかたち」とは、神さまが、はじめに人間を創造された時に、「神は御自分にかたどって人を創造された」とあったことを意味しています。人間が、「神のかたち」に創造されたとは、人間が、神さまの呼びかけに応答することが出来る存在。神さまと、語りあり、響き合い、共に生きることが出来る存在として造られた、ということです。

しかし、人間は、その神さまの御心に背いて、罪を犯し、神さまから離れ、神さまの応答に応えなくなってしまった。いただいた「神のかたち」を歪めてしまって、神さまと響き合わなくなってしまったのです。

でも、神の御子イエスさまが、そのようなわたしたちの罪を償い、わたしたちを神さまの許へ連れ戻してくださいました。そこで、わたしたちはまた、神さまの呼びかけに応える者となっていく。聖霊を受けて、恵みを受けて、「神のかたち」を、新たに取り戻し、回復させられていく。いよいよ、神さまと愛し合い、神さまと、豊かに美しく、響き合う者とされていく。

…罪人であったわたしたちは、罪を赦してくださったイエスさまと、一つに結ばれたその日から、そのようにして、日に日に、次第次第に、いよいよ「神のかたち」へと、新しく造り変えられていくのです。

そうして、終わりの日の完成へ、御子と似た者となる日へ、向かっていくのです。

<聖霊の恵みを請う祈りによって>

ですから、わたしたちは、聖霊の恵みを求めて、祈り続けていくのです。

間違っても、神さまが完成させてくださるから、神さまが「神のかたち」へと新しくしてくださるから、わたしたちは何もしないでよい、ということではありません。中々守ることができない「十戒」は、もう忘れてもよい、ということではありません。

なぜなら、「神のかたち」を取り戻していくということは、ますます神さまを愛し、ますます神さまの御言葉に耳を傾け、ますます神さまにお応えし、ますます神さまの御心に従うようになっていく、ということだからです。

そしてそれは、ますます心を込めて神さまを礼拝し、ますます熱心に祈る者となる、ということに他なりません。

その中で、わたしたちは、次第次第に罪をより深く知り、いよいよ恵みに感謝し、いよいよ御言葉に従うことを、求めていくようになるのです。

そうして、いよいよ「神のかたち」へと新しくされていくのです。

ですから、わたしたちの感謝の生活には、この、聖霊の恵みを請い求める祈りが、必要不可欠です。祈りこそ、信仰生活の土台です。ですから、ハイデルベルク信仰問答は、「十戒」の後、最後に、「祈りについて」を、教えるのです。

感謝の生活の道しるべとしての「十戒」。そして、その歩みを支えていく「祈り」です。

わたしたちは、今日ここから、罪を知って悔い改め、恵みを知って感謝し、いよいよ「神のかたち」へ、新しくされていく歩みを、聖霊によって祈り求めていきたいのです。

そして、神さまに喜ばれる、心からの感謝の生活を、ささげていくことができますように。

## 【お祈り】

天の父なる神さま

わたしたちに「十戒」を通して、御心を示してくださり、感謝の生活の道しるべを与えてくださったことを、感謝いたします。

わたしたちは、「十戒」の御言葉に触れる度に、いよいよ自分の罪を深く知るばかりです。しかし、それは、いよいよあなたの恵みの大きさを知り、いよいよ聖霊の助けを、導きを求める祈りへと、わたしたちを推し進めます。どうか、わたしたちを聖霊で満たし、あなたの御心に適った者へ、「神のかたち」へ、御子に似た者へと、新しくしてください。

そして、イエスさまが再び来られる日まで、神さまを愛し、隣人を愛し、礼拝と祈りに生きる、喜びと恵みの道を、大切に歩いていくことが出来るように、導いてください。

このお祈りを、主イエス・キリストの御名によってお祈りいたします、アーメン

【讚美歌】 5 1 6 「主の招く声が」

【信仰告白】 ニカイア信条

【十戒】

【献金】 6 5 - 1 「今そなえる」

【主の祈り】

【祈祷】

【讚美歌】 2 6 「グロリア、グロリア、グロリア」

【祝福】 主があなたを祝福し、あなたを守られるように。

主が御顔を向けてあなたを照らし あなたに恵みを与えられるように。

主が御顔をあなたに向けて あなたに平安を賜るように。

主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、

あなたがた一同と共にあるように。アーメン